



## 畑を作る魚

### - クロソラスズメダイの仲間 -

海の中ではサンゴも卵を産んでいますが、魚たちも繁殖期で、イソギンチャクのうらの岩にはクマノミが卵を産みつけています。この時期のクマノミにちょっかいをだそうとすると猛烈な勢いで攻撃してきます。卵を守ることに神経質になっているのでしょう。けれど、繁殖期でなくとも、人が近づくと威嚇してくる魚がいます。今回は、そのクロソラスズメダイという魚の仲間をご紹介します。

慶良間の海でスズメダイというと、ルリスズメダイやデバスズメダイなど色鮮やかで体長が5~6cmの小さな魚たちがまず思い浮かびますが、クロソラスズメダイの仲間は、色は黒っぽくて目立たないし、体長も10cm以上ありあまり「かわいい」という感じはしません。また、クロソラスズメダイの仲間がいるところは、海藻がもさもさと生えていて、サンゴがあまりいないせいか、「美しいサンゴ礁」とは思えないことがほとんどです。けれども魚たちにとっては、このもさもさと生えた海藻こそが大事で、クロソラ

スズメダイの仲間たちはこれをエサにして暮らしています。しかも、ただ食べているだけでなく、実はこの海藻、魚たち自身が養っているのです。

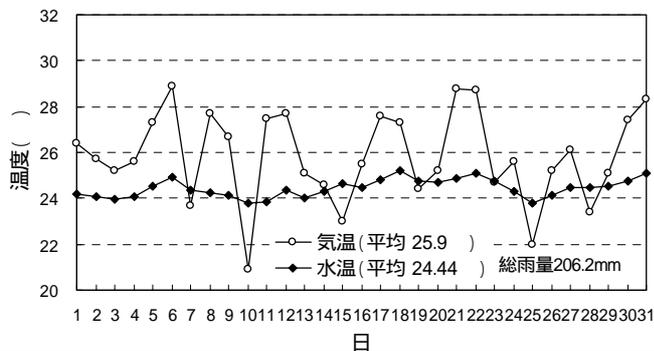
海藻を養うスズメダイとして、クロソラスズメダイ、ハナナガスズメダイ、ルリホシスズメダイ、スズメダイモドキ、セダカスズメダイが知られています。どの種類も、自分のなわばりを持ち、その中の海藻を守っているのですが、特にクロソラスズメダイは、なわばりに入ってきたほかの魚やウニなどを追い払い、自分の海藻が食べられないようにするのはもちろんのこと、自分の育てている種類以外の海藻が生えてくると、それを取り除いて手入れをすることがわかっています。まさに、雑藻取りをして自分の畑を作っているのです。これまでに人間が確認している生物の種類は175万種にもなると言われますが、その中でもこんなふうに自分が食べるためにほかの生物を養う生き物は、ヒトを含めてごくわずかしが知られていません。

姿も暮らしている場所も地味で、美しいとは言にくいかもしれませんが、クロソラスズメダイの仲間は、ほかのどの魚もまねのできない、知恵を感じさせる生活を営んでいるのです。

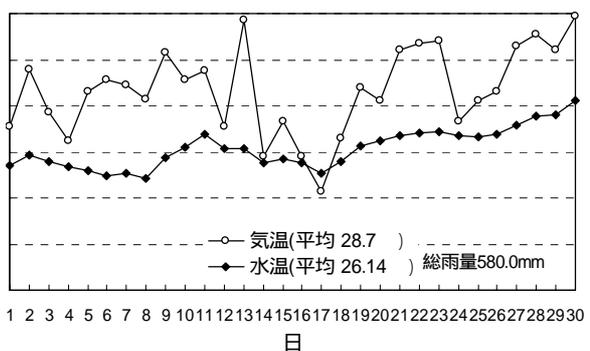
ちなみに、この仲間は阿嘉島周辺のいろいろな場所で暮らしていますが、マエノハマで簡単に見ることができます。ただし、人間も“なわばりから追い出すもの”に入っているらしく、あまり近づく

## 定点観測

2005年5月



2005年6月



と「ガチ、ガチ」という音で脅され、時には<sup>か</sup>噛んでくることもあるので、気をつけて観察してください。

### 阿嘉島の海より

#### 阿嘉小サンゴ産卵観察会

気温も暖くなり、海の生き物も産卵シーズンを迎えました。これまで研究所では、島の子供たちを集めて水槽の中でサンゴが産卵する様子を観察してもらっていましたが、今年はおど阿嘉小学校が主催して自然のサンゴの産卵観察会をマジャノハマ(阿嘉ビーチ)でおこなうことになりました。最初は5月に観察会を予定して



いましたが、産卵とのタイミングが合わず6月に再チャレンジとなりました。

そして6月21日午後8時頃、いよいよ待ち

ちに待ったサンゴの産卵が始まりました。海底のサンゴから湧き上がってくる無数の卵に、観察している子供たちから歓声があがりました。

このような自然の営みを身近に観察することのできる貴重な海をいつまでも守っていききたいですね。

#### 阿嘉校での国際交流会

7月5~7日の三日間、JICA(国際協力機構)の主催する集団研修が阿嘉島でおこなわれました。この研修は東南アジアや南

太平洋諸国からの研修生が、日本各地を回りながら色々な勉強をして帰るものです。そして阿嘉島での研修の最終日には、阿嘉校体育館で阿嘉の子供たちとJICA研修生たちとの国際交流会が行われました。

子供たちはサンゴ礁教室や先日の産卵観察会の様子を紹介し、最後にはみんな「私達の宝物であるサンゴ礁を守って下さい!」という、英語のスピーチまでしてくれました。そして研修生たちからはそれぞれの国の文化やサンゴ礁についての話をしてもらいました。質問も多く飛び交い、大いに盛り上がりました。

研修生たちは、子供たちの発表の出来の良さや、産卵観察会の時の島の皆さんの温かい協力にとっても感心していました。

サンゴ礁を通して、色々な国々の人達と分かり合うことの出来たとても楽しい交流会でした。多くの研修生たちが言っていたように、この美ら海でサンゴを実際に見て学べる子供達は、とてもラッキーです。サモアから来たジョイスさんは言っていました、「君達は阿嘉島から離れる事は出来るけど、阿嘉島は君たちの心から離れることは出来ない。だから、キレイな海を君たちの手でいつまでも守っていこう」と。

